

— 港・海岸・海辺めぐりの旅 — 千葉県 銚子港

関東地方を北から東へ、そして太平洋へと流れる利根川。足柄峠と碓氷峠を境にして、それより東の諸国を総称する「坂東」の地を流れる日本最大級の河川であることに由来して「坂東太郎」の異名を持つ一級河川だ。ちなみに、九州地方最大の筑後川が「筑紫次郎」、四国地方最大の吉野川が「四国三郎」と呼ばれるのだとか。そんなユニークな河川3兄弟の話が伝わる利根川の河口を港として栄えたのが銚子市である

-銚子港- 海の幸に恵まれた港

銚子市は千葉県の北東部に位置する人口約5万8千人の町。沖合では黒潮と親潮がぶつかり、豊富な海の幸をもたらしている。銚子漁港は日本屈指の年間水揚量を誇り、サバ、サンマ、イワシがその大半を占める。JR総武本線の銚子駅で下車し「シンボルロード」の遊歩道を進むと、坂東太郎に架かる「銚子大橋」の姿が目映る。釣り人の姿が多い河岸から「ココロード」を抜けて、銚子電鉄の犬吠駅を目指し、海岸沿いを散策しながら進むと、君ヶ浜海岸からは沖行く船舶の安全を見守るようにたたずむ犬吠埼灯台が見えてくる。

-犬吠埼灯台- 「世界灯台100選」「日本の灯台50選」に選ばれた貴重な存在

犬吠埼灯台は日本を代表する灯台の1つで歴史的文化財としても重要な灯台だ。平成22(2010)年4月28日、国の登録有形文化財に登録された。明治初期に、江戸条約によって建設された8基、大坂条約によって建設された5基の洋式灯台に続く重要な灯台として建設された。小島や岩礁が多い「難所」に建設された灯台は、最大の第1等レンズを使用した第1等灯台(日本に5つしかない)だ。

-白い郵便ポスト-

太平洋を望む犬吠埼灯台の入り口には白い丸ポスト。灯台を管理する銚子海上保安部と銚子郵便局が協力して、銚子のイメージアップと観光スポットの活性化に貢献しようと設置した。

-君ヶ浜海岸- 平成8年に「日本の渚・百選」に選ばれた君ヶ浜海岸

灯台方向を目指して遊歩道を歩いていくと、海岸の途中には「河童百図」の作者として有名な小川芋銭の句碑がある。銚子は富士山や小笠原諸島以外の平地で日本一早い初日の出を見ることができるといわれ、これは元日前後の数十日間に限られているが、日本最東端の根室より早く日が昇るのは、地球の地軸の傾きのため。爽やかな潮風を受けて犬吠埼灯台の展望台から太平洋と君ヶ浜を見渡すと、地球が丸いということを肌で感じることができる。

-銚子ポートタワー-

雄大な流れの利根川河口に面した銚子漁港には、3ヵ所の卸売市場があり、一番河口側にある第三魚市場のそばに銚子ポートタワーがある。

4階の展示室からは太平洋と利根川、漁船の出入り風景を楽しむことができ、のんびり流れる利根川とその街並みに、時間の経過がゆっくりと感じられる。

近くにある「銚子無線電信局発祥の地」の碑は、日本で無線電報を取り扱った最初の日が記されている。銚子無線電信局の開設は明治41年5月16日、同年5月27日に太平洋を航行中の丹後丸との無線通信に成功した。